

かずさ

日本ボーイスカウト上総地区

28号

発行日
2012.2.1

お父さん、お母さん 日航機事故を覚えていますか？

第2回地区ベンチャー開催

平成23年10月8日から10日2泊3日の日程で、群馬県上野村川和自然公園キャンプ場においてスカウト13人、指導者3人、合計16人で開催した。スカウト自らが実行委員会を立ち上げ、9回の実行委員会で検討し、活動を「千葉ではできないことをしよう」に設定し、①上進の新人ベンチャースカウトの歓迎、②日航機墜落事故とは何かを知り、御巢鷹山へ慰霊登山を行うとともにこれからの自分を考えてみる、③関東最大の鍾乳洞「不二洞」を踏破する、の3つを目的とした。御巢鷹山への登山はスケジュール上実施できなかったが慰霊の園で冥福を祈り、事故に関してフォーラムで話し合った。

【市原第3団】 山本 開生 (実行委員長)

今回、日航機墜落事故の慰霊の園へ行って、フォーラムを行い思ったことは自分が今、生きている事を噛みしめて、今の自分にできる最善を尽くして生きていこうと思いました。520名の多くの方が犠牲となったこの事故をいつまでも忘れることなく、これからの日々を過ごしていきたいと思います。

【茂原第2団】 宮崎 まりえ (副実行委員長)

私はこのフォーラムを通して命の尊さを知りました。もしかしたら今、生きていることが奇跡なのだと思います。私は未成年で仕事の大変さなどはあまり判りませんが、今回のフォーラムで社会の一つひとつの仕事が私

たちの命を守ってくれていると思います。そして生きていることが奇跡なら、もっと1日を充実させて大切に過ごそうと思いました。またキャンプにいくと毎回、自然のありがたさ等を思います。今回のキャンプで、このような命の尊さを考えられる機会を設けられて良かったと思います。

【市原第1団】 植田 優輔

自分はフォーラムを通じて思ったのが、「エンジニア一人ひとりの自覚」だと思いました。自分の父が土木関係の仕事をしていて、主に駅や橋などの多くの人々が利用する公共の施設を建築しています。その中で古い部品や不良品などをその場の面倒臭さにまかせて使ってしまうと大勢の人々が事故などにより亡くなってしまいます。

父の仕事を見に行った時、父はいつも家でみせる優しい態度ではなく、一人のエンジニアとして厳しく見えました。そんな父を自分は誇りに思うし、改めて父のすごさを実感しました。



【市原第1団】 倉知 航大

私は日航機墜落事故の慰霊碑を見たときに思いました。もしかしたら、この前の修学旅行で死んでいたかも知れない、本当はあの時に乗った飛行機でクラスメイトと一緒にどこかに墜落して命を落としていたかも知れない。しかし運良く偶然に安全な飛行機に乗れた、またトラブルが起こりうる箇所が、何も起こらずに済んだだけなのかも知れないと思えたのです。日航機墜落事故が起こる前の人たちは、私たちと同じように楽しい旅行気分であって、これから自分たちが事故に遭うとは誰も予想していなかったでしょう。この事故が起きていなければ、当時飛行機に乗った人たちも、今の私が経験したような思い出を持って、今も生きていたはずと思うのです。私は今、生きている



ことに感謝して二度とこのような悲劇が起こらないことを心より祈ります。



【市原第3団】 牛田 涼

今回の活動やフォーラムを通じて、これから気を付けていこうと思ったことがあります。それは些細なことでも怠けることなく、確実に行動できる自分になろうと思いました。

【市原第3団】 吉澤 航

フォーラムでみんなが発言したように、自分がいつ亡くなってしまうのかと考えることが、これから生きていくうえで大切なことだと思った。そして人が亡くなるということは、とても大変なことなのだ改めて思えた。また自分も人の命を守る立場になったときに人の命の大切さを考え、丁寧にしっかりとしていこうと思った。

【市原第3団】 北川 健一

今回のフォーラムで命の大切さを知ることができた。自分もいつ命がなくなるかわからないので、毎日毎日、自分が満足できるように生きていきたいと思う。そしてこの事故を絶対に忘れてはいけないと思った。

【市原第3団】 山本 彩恵

今回、この事故のことについていろいろと知り、いろんなことに関して考え方が変わりました。まず今までは、今生きていることが当たり前とと思っていましたが、私もいつ亡くなってしまうかわからないと思いました。そして一日一日をもっと大切に過ごさなくてはならないと

思えました。またこの事故について、私たちはもうこれ以上、このようなことが起きないように願うことしかできないけれど、このようなことがあったという事実を絶対に忘れてはいけないと思いました。

【市原第6団】 森 皓平

今回、日航機墜落事故の慰霊の園を参拝して、520人の名簿を見て、改めて事故の悲惨さを実感しました。事故に遭われた方の機内で書かれた遺書の話をして聞いて、かなりの恐怖の中と思われる中で、家族に対して遺書を残したことを思うと、人間の強さに感動をしました。僕は将来、経営者になりたいと思うのですが、確かにコストを優先させたいと思うことがあるかも知れませんが、この事故のことを思い出して、絶対に安全を優先させたいと思いました。慰霊の園にあった参詣者名簿を見て、25年以上たった今でも週に10組以上の参詣者がいることを知り、この事故はまだまだ風化していないと思い安心をしました。



【市原第6団】 大土 琢海

日航機墜落事故について、これから自分に生かしていきたいと思うことは、この事故により亡くなった方が520名もおられて、中には80歳の方や3歳の子供もいました。事故現場の写真も山がぐちゃぐちゃになっているものなどがありました。今、私は生きているけど、この先に事故などで命を亡くすかもしれないと思うと、とても恐くなりました。これからの人生を人のために尽くしていきたいです。

【茂原第2団】 海藤 歩

私はスカウトフォーラムというもの始めてやりました。いつも明るいみんながこんなに暗くなるとは思いませんでした。今回の内容は日航機墜落事故について学びました。私は現地に行き、色々なことを考えました。私達は、もっと生きていることに感謝すべきだと思いました。この事故にあった人達もほんの些細なことで亡くなることになりました。私達は、亡くなった人の分までということではできませんが、これからの人生を見直して生活していきたいです。

【大網白里第1団】 北原 一樹

今回、行った日航機墜落事故の慰霊の園で見ることができた資料の中に名簿や写真がたくさん載っていてびっくりしました。その中には3歳の子や家族などもいて、その写真はみんな笑顔で、私は悲しい気持ちになりました。その人たちは、まさかその飛行機に乗り、亡くなってしまふなんて思っていなかったと思います。墜落する機内で家族に宛てて書いた手紙を読んだとき、泣きそうになってしまいました。少しの整備不良で520名もの命を亡くす大事故につながってしまいました。二度とこのような事が無いように自分も些細なことに気を付けて、大きな事故につながらないようにしていきたいと思います。

【大網白里第1団】 佐々木 俊

今回の機会を通して、本当にこの事故は悲惨で二度とあってはならないものだと思いました。私はこの「とても悲惨な事故」を先日、初めて知ったことを恥ずかしく思いました。人はだんだん物事を忘れていくものですが、この事故のことを絶対に忘れることの無いように、まだ事故のことを知らない

人たちに語り伝えていくべきと思いました。



～昭和ノスタルジア～ ～めざせ！なぞのサークル～

初めての上総地区カブラリー

平成23年7月3日、昭和の森公園で上総地区として初めてのカブラリーが開催されました。

スカウト、指導者等合計210人が昭和の森に集い、ハイキングをする中でベーゴマ、昔遊び、工作等を楽しみ展開し、数々の素晴らしい思い出をつくることができ、最後に平成25年開催される第16回日本ジャンボリーで集まることを約束し散会しました。

カブスカウトのみんなは、昭和という時代を知っていますか？今年が平成23年、平成の前の年号を昭和と言っていました。

携帯やパソコンも無かった昔、おじいちゃん、おばあちゃん、お父さん、お母さんが子供だった頃、どんな遊びをしていたのかな？

上総地区カブラリーでは、昭和の森公園に昭和の時代の遊びが再現されました。広い公園いっぱいを使ってハイキングコースと途中8か所のゲームコーナーが設定され、カブスカウトが地図をたどって探検し、途中でゲームを楽しみます。



篠竹で紙鉄砲を作り、丸めた紙の玉を飛ばして的に当てるゲーム、時間に余裕がある人はウグイス笛も作って楽しむ「工作コーナー」。



竹には、真竹・孟宗竹・黒

竹、篠竹その他竹林には沢山の種類の竹があり、種類を調べて縦横斜めが完成すればでき上がる「竹ビンゴコーナー」。



ゴムとび、ビー玉、けん玉、あやとり、ゴム鉄砲、はないちもんめ、けんけんぱなど、お待ちかねの「昔遊びコーナー」。おじいちゃん、おばあちゃん相手ではなく、この日はリーダーに教えてもらった。



今回の売り物ゲームはベーゴマ。この日のために組集会や自宅で皆ベーゴマを練習してきました。その腕前を「ベーゴマコーナー」で待ち受けるベーゴマ大魔神と対戦しました。何回か対戦し、勝つと景品をゲット、楽しさが倍になりました。



「市民の森コーナー」では市町村の木の名前を調べ、「展望台コーナー」では方位を、「分かれ道コーナー」ではソングを、



最後に「ゴールのコーナー」。各コーナーを体験すると組毎に8分の1枚のピースをもらうことができ、8枚全部を貼り合わせると1つの文字になります。

1日楽しんだあとの閉会式、参加した8個団18組全員がじゃんけんゲームで次々につながり大きな丸・1つ目のサークルになりました。そして各組代表18人がゲームで集めたピースを組み合わせてできた文字を持って、順番に並ぶと一つの文章となりました。「カブ-のなかまこんどはジャンボリーで」。なぞのサークルが完成しました。

各団からの便り

■市原第1団 記憶に残るスカウト活動

カブスカウト隊副長
常世田勝司

この度の震災により亡くなった方々には謹んで弔意を表しますとともに、被災された方々には謹んでお見舞いを申し上げます。

3月27日、市原第1団カブ隊は東日本大震災で被災した方々に対して、少しでも支援の手を差し伸べられたらいいと思い、募金活動を行いました。スカウトたちはただ歩いて疲れたと思っただけではどうか。何かをやり遂げたという達成感だったので

しょうか。スーパーマーケットの前でたくさんの方が行きかう中、スカウトたちは大きな声を出すのは恥ずかしかったかも知れませんが、困った人がいても素直に手助けするというのはなかなか勇気がいるものです。私は募金を呼びかけるスカウトたちの姿を見て彼らを心強く思い、気持ちが少し楽になりました。

本当に誰かの役に立っているかどうかはわからないから私はそんな無駄なことはしない、と

言う人もいるでしょう。でも人は損得だけで生きていけるのでしょうか。社会は他人に対しての愛情や未来への希望を考えることができる人が集まっているから成り立っているであり、隣人愛や希望、幸福といったことがなければ人は生きていけないと思います。



スカウトたちが意識せずとも困った人の役に立つことができるということは、スカウト活動の理念でもあり、年齢を重ね負わずとも「いつも他の人々を助ける」思いやりのある大人になってくれたらいいなと思いました。

災害や事故に対して常に備え、また未来に対しても備えなければいけないのだと思った時、私も心を強く持たなければならぬと思いましたし、後藤新平氏の「人を残すものは上だ。」といった言葉を思い出しました。



平成23年のスカウトの日は、市原市役所の周辺でカントリー大作戦を展開した後、「私のカーボンフットプリント」について議論して、隊(組・班)毎に発表しました。始めはカーボンフットプリントって何だろうと戸惑いもありましたが、仲間で議論していく内に、「こんなことだったら僕にもできるな」と、次々に意見が出てきました。ビーバー隊も自分にできる小さなことを真剣に考えて発

■市原第3団 “地球大好き”～私にできることから

表してくれました。

今年は3月11日に東日本大震災があり、「私に何ができるだろうか」と、みんな真剣に考えてくれました。ベンチャー隊は旭市で津波災害の後片付けに出向き、各隊で義援金募金をカインズホームや、アピタ、あずの里、市役所前、ケーズデンキで4回に渡り行いました。スカウト達は大きな声で、みんなの暖かい励ましを受けながら頑張りました。

こんなうれしいこともありました。市原第3団では昨年度香港とアメリカのスカウトのホームステイを受け入れたのです

が、「地震大丈夫でしたか？」とメールが来たのです。“地球大好き”世界中の人がみんなで私にできることをやっていけば、きっと素敵地球を作ることができると思います。



■市原第5団

・・・雨雲を吹き飛ばせ・・・

市原5団では、去る10月22日(土)にボーイ隊主催による恒例のナイトハイキングを開催しました。当日の天気予報は雨予想。しかし、桐谷隊長はじめスカウト達の熱意が天に通じたのか予定通り開催することができました。今回の参加者はボーイ隊スカウト14名、ベンチャー



スカウト1名、指導者7名の22名。コースは南総公民館を出発し、長南町の旧笠森保養センター近くを経由し、鶴舞から牛久へと周ってくるコースです。途中、全く人通りのない田園地帯を歩くため、夜空に輝く星を期待したのですが、残念ながらこちらの方は願いが通じませんでした。初めて参加したスカウトの感想です。
・大沢章悟「疲れた。ふくらはぎが痛かった。」
・石塚裕太「足が痛かったけど、みんなで歩くと楽しかった。」
・立石一登「疲れたけど、

昼のハイキング以上に楽しかった。足が速くなって、学校のかげっこに活かしたい。」

・原慎太郎「はじめてのナイトハイクでとても疲れた。もっと体力をつけて、この次は疲れないようにしたい。」

・杉田友香「足が痛かったけど、とっても楽しかった。」



市原第6団で本年8月に実施したタイムカプセルについての団集会を紹介します。

10年前を振り返ってみると私はローバー隊長でした。嫌がるスカウトを説得しローバー隊主催の「6団新年の集い」を始めました。

正月早々にも係らず各隊より大勢参加いただきローバー隊は、餅や焼き鳥、豚汁、を作り各家庭より我が家の正月料理を一品持ち寄ってもらいおいしくいただきました。スカウトは、昔ながらの遊び(羽子板、こま回し)など指導者と一緒に楽しそうに遊びました。そしてスカウトが今年の抱負を発表し以後新年のスタート行事として恒例となっていきました。



■市原第6団 タイムカプセルを開けよう！ そして、10年後の自分にメッセージを！

団委員長 星山 豊栄

2001年1月2日の新年の集いに当時の小野カプ隊長の企画でカプ隊を中心に「将来の夢」を書きタイムカプセルとし10年後に開封することにし野営場に埋めました。10年目の今年小野隊長を中心に団行事として、ローバー隊(当時のカプスカウト)がプログラムの立案と司会を担当しタイムカプセル開封行事を8月28日に行いました。参加者は、招待者(退団者など)を含み88名の団集会となりました。

小野隊長の挨拶から始まりタイムカプセルが10年の眠りから掘り起こされると拍手が沸き起こり、カプセルは、当時のスカウトの手で開封されました。結露などで中身はどんな状況なのか興味津津です。ところが、予想に反し手紙は、当時のまま変わりなくインスタントカメラも無事でこれは驚きでした。

手紙は、10年の時を経て無事持ち主に帰り、それぞれ手紙を披露してもらい感想を述べてもらいました。尚、今回出席でなかった当



時のスカウト、保護者からのメッセージと近況報告を読み上げるとタイムスリップして当時の映像が甦ってきます。スカウトの成長が目に見え感無量的一幕でした。

そして、参加者全員で10年後の自分にメッセージを書きカプセルに投函しました。封印は、10年後の主役となるビーバー隊で行いカプセルは、長い眠りにつきました。

ローバー隊司会者の、「10年後の8月一人も欠けることなく全員で集まりましょう」の閉会の言葉で団集会を終了しました。

■市原第7団

ローバースカウト隊夏季山行

ローバースカウト隊長 生井沢 昌美

2011年8月7日(金)～9日(日)の日程にて、ローバースカウト隊夏季キャンプとして南アルプス『北岳』に登って参りました。その感想などを少々。

何故『北岳』だったのか？

私がボーイスカウト隊の副長だった5年前、隊のプログラムとして20名近いメンバーで富士登山を達成しました。この時から標高日本No.1の富士山の次はNo.2の北岳と、心に決めていました。



平成23年9月19日、茂原第2団は入隊式を行った。茂原市民体育館にてビーバー隊からローバー隊まで全ての隊が集まり、式典(「やくそく」「ちかい」の式)が行われた。一時間程度の式典の後、各隊でカントリー大作戦を行った。ベンチャー隊はビーバー隊と共に市民体育館周囲のゴミを拾って歩き、ボーイスカウトのPR活動も行



ローバースカウト隊の隊長として、この夢(?)が実現したのです。

概要紹介

『北岳』は、南アルプスに位置する標高3,192メートルの高山。今回一番ポピュラーな登山道である、広河原よりアプローチしました。標高差は約1,700メートル! 予定では7時間程度(休憩含む)の道のりです。参加者は米本スカウトと友人の渡邊君の3名、装備は分担せず、各自自分の個人装備(テント、食料等)を持って行くこととしました。

いざ!

市原を7日の未明に車で出発し、登山バスの発着点である芦安駐車場に4時頃到着。その後少しだけ仮眠を取り、始発のバスで広河原へ。予定通り7時前



には登山スタート!

参った

昼頃より雨が降り出し、2時頃には雷雨に!! 歩みの遅い隊長は後からゆっくりと登る事とし、二人はさっさと山小屋へ。この日はここまでで中止、山頂は明日朝のお楽しみに。

感想は?

夏山の雷雨は恐ろしかった、二人が持って登った食料の多さにビックリ! 若いってすごいですね。山頂の景色は絶景ではありませんでしたが、穂高の方が感動したかな?

さて来年は

来年は3泊予定で西穂高岳～奥穂高岳～涸沢岳～北穂高岳の縦走に挑戦です!

■茂原第2団

ベンチャースカウト隊入隊式

ベンチャースカウト隊 朽木将悟

った。

その後場所を移動し、ボーイ隊からの上進スカウト歓迎会として得意の野外料理技能を駆使した串焼きを振舞った。タコやイカ、ホタテ、えび、さんま、スペアリブ、厚切りベーコン、焼き林檎、マシュマロ等、ち

よっとリッチな品揃えである。

上進スカウトとも楽しく活動できたので、快調な滑り出しと言えよう。今回上進したスカウトの内3名が菊スカウトなの



で、野外活動を始め地区ベンチャー会議や県連盟ベンチャー会議などにも積極的に参加して、活動の幅を広げ、ベンチャー隊だからこそ出来る活動を楽しんでもらいたい。

■東金第1団

山武市で災害支援訓練

ローバースカウト隊長 嶋田浩三

山武市社会福祉協議会から夏休みの1日、市内小学生を対象とする災害対処訓練の支援依頼があり、会場の「さんぶの森公園」を団キャンプの場として団で支援することにしました。7月30日は生憎学校行事等と重なり参加者は小学生7名を含む20数名でしたが、ロープ結び及び救急法をローバーやベンチ

ャースカウトで、A型テントの立て方等をボーイスカウトで、最後にモンキーブリッジ渡りを体験するプログラムに従い、各隊や指導者は前日から野営訓練の一環に組み入れ、雨天ながら円滑かつ充実した訓練支援ができました。山武市は東日本大震災の津波被害地でもあり、参加者への資料、ロープ、三角巾配布や昼食のカレーの炊き出し等で主催者の心意気を感じました。我々



も美味しいカレーを御馳走になったのは言うまでもありません。余談ながら、受講した小学生2人が(多分親も)入隊してくれるという嬉しいおまけも付きました。



大網白里第1団ボーイ隊の上進スカウト歓迎キャンプを2011年10月22日(土)~23日(日)に実施した。今回は、カブ隊から上進してきた新人の歓迎キャンプ。肝心のボーイの先輩スカウトがたった1人の参加とは如何にも残念だったが、ベンチャーに上がったばかりの上班がいて千人力だった。到着後、昼食を済ませテントの設営。と言っても、A型テントを建てた事のあるのは中1の女性スカウト一人で前途多難。幸い、上班は昨年日本ジャンボ

■大網白里第1団

～下見兼ね一足お先に「風の村」でキャンプ～

団委員長 薄田 隆

リーで鍛えられてきた菊章をもつ強者、我ら指導者は口も手も出さず、ただ見守っていた。上班は驚くべき指導力を発揮してみせ、設置場所を決める条件を示し、続いて整地、さらに、ペグの本数確認後設営させた。きちんと基本を押さえていたのにはビックリした。4時から夕食の準備。メニューは、焼きそばと簡単そうだが、火起こしから始めるから大変だった。夕食後の夜話の時間は星空。一日雨という予報が外れて大感謝。しかし、真夜中に雨の音。浸水していないか、地盤が緩んで傾いたりしていないか、気掛かりだったが、朝、目覚めて、外に出ると朝靄の周りは水溜まりだらけの中に、テントが立派に偉容を誇っており、立地選定の良さを証明していた。蛇足だが、来夏計画している上総地区キャンポリーで、8個団のボーイ隊が班毎にテントを張ると殆どは浸水必至、雨対策の必要性を痛感した。



ックに入れて火中へ、副食はゆで卵、卵も濡れティッシュを幾重も巻き付け、アルミホイルに包んで火中に投入。約15分でホットドッグとゆで卵の出来上がりだ。朝食後は青少年協会主催の植樹祭への奉仕。約27km離れた一宮海岸迄移動し、大網から直行のカブ隊、ローバー隊、保護者と合流して植樹祭に参加。10時半から正午迄で500本の松の苗木を、30名の力で植えた。防風林として立派に育つ事を願う。植樹後はテントサイトへUターンし撤営。夜中の雨、一宮への往復も雨、濡れたテントの後日の手入れを心配したが、晴れ間がのぞき始め、着いた時には、青空が広がっていた。テントにグランドシートも短時間で乾き撤営は1時間足らずで終了。心掛けのいい人は違うと、自画自賛、勇躍大網への帰途についた。



朝食はホットドッグ。ソーセージを挟んだパンをアルミホイルに包み、牛乳パ

地区協議会

——皆で考えよう地区のアクションプラン——

「スカウティングの楽しさをスカウトに!!」

平成23年度地区協議会を12月4日市原青少年会館にて開催しました。本年のテーマは皆で考えよう地区のアクションプラン、サブテーマを「スカウティングの楽しさをスカウトに!!」良設定し、これまで各団や隊が実施してきた活動内容を評価し、今後の活動に反映する事項、地区の事業に反映する事項などを話し合いました。

開会にあたって、伊藤県連盟コミッショナーから、スカウト人口の減少の原因として、スカウトのスキルの低下や現場指導者の資質、情熱の低下などが懸念される。それに対してスカウト進歩プログラムの見直し、指導者の研修所や実修所のカリキュラム変更など日本連盟が取り組んでいる内容が報告された。

続いて上原地区委員長から事業の実施状況として、救急法講習会スカウトコースが参加人数が少ない等から中止となった、救急法技能章は進歩に必要なことから、受講するよう指導して欲しいとの報告がされた。また、提出期限、回答期限等守られない例をあげて、社会人として、指導者として約束は守るよう

お願いしたい、同様にメールについても、受信した場合には意思表示の返信をしてほしいとの呼びかけがなされた。

協議にあたって阿久津コミッショナーから導入に関する説明があった。スカウト運動の基本原則、より良い市民を育てることがこの運動の目的であり、原点に戻って考えよ!! ウッドクラフト(野外生活術)に徹し、汗を流し、涙を流し、痛い目に遭い体験することによって成長する、との奥島日本連盟理事長の話が紹介された。グループ討議の進め方は、1. 現状の把握、2. 討議(スカウトに楽しさを返すには、理想に近づけるためには、指導者として何をしたいいけないか、何をしなければいけないかなど) 3. 結果



の発表、質疑・意見交換後4. 合同ラウンドテーブル(ビーバーからベンチャーまで縦のラインで一貫するようすり合わせを行い、地区のアクションプランにつなげる)の4STEPとした。

協議は、隊毎に小グループに分かれて行い、その結果班長・次長の教育、技能サーキットで実施する内容の幅の拡大、地区全体で実施する事業の計画(保護者にボーイ活動の素晴らしさを見て頂く戸外活動やビーバーからローバーまで縦の一貫活動)などが提言された。これらについて阿久津コミッショナーから、平成24年度事業計画策定に反映できるように考えて行きたい、とのまとめがあり閉会した。

日本ボーイスカウト千葉県連盟上総地区

千葉県内には115の団があります。それぞれの団は、県内を11のブロックに分けた地区に所属しています。我が上総地区もこの11の地区の一つです。また、上総地区には8個の団が所属しています。上総地区を編成する市町村は以下のとおりです。
市原市、茂原市、東金市、山武市
山武郡：大網白里町、芝山町、九十九里町、横芝光町
長生郡：長柄町、長南町、睦沢町、一宮町、白子町、長生村
上総地区全体のお問合せ先：上総地区事務局 福岡 久士 0436-62-1907

団名	活動地域	入団等 問合せ先	電話番号
市原第1団	市原市八幡宿、五井 周辺	鈴木 国夫	0436-41-2943
市原第3団	市原市国分寺台 周辺	河崎 哲夫	0436-43-2226
市原第5団	市原市牛久 周辺	藤代 良彦	0436-92-0034
市原第6団	市原市辰巳台・ちはら台 周辺	斉藤 敏子	0436-75-0392
市原第7団	市原市姉崎・有秋台 周辺	狐塚 幸雄	0436-62-3819
茂原第2団	茂原市、長生郡 周辺	青木 勇	0475-23-9239
東金第1団	東金市、山武市、山武郡 周辺	山下 博行	0475-55-0204
大網白里第1団	大網白里町、白子町 周辺	奥 貫 誠	0475-72-7988

発行：上原 進 (地区委員長) 編集：運動拡大委員会 (委員長 山本 勲)